

## 令和2年度第3回 岡山県障害者施策推進審議会・岡山県自立支援協議会 議事録（要旨）

- 1 日 時 令和3年2月8日（月）  
13:30～16:00
- 2 場 所 ホテルメルパルク岡山3階「芙蓉」
- 3 出席委員 村社会長、石原委員、伊山委員、小川委員、嘉敷委員、片岡委員、田中委員、  
徳弘委員、難場委員、中島委員、永田委員、福田委員、藤井委員、藤田委員、  
本田委員、眞野委員、薬師寺委員 以上17名（全員出席）
- 4 議事概要（主な質疑応答）

議題（1）第4期岡山県障害者計画案について

（2）第6期岡山県障害福祉計画・第2期岡山県障害児福祉計画案について

### (1) 第4期岡山県障害者計画案について

（委員）

福祉サービスの利用者がコロナに感染することもある。コロナについての対応など、保健、医療、福祉の連携の在り方とか情報の共有について具体的に書いてほしい。

（委員）

県有施設の障害者用駐車場について、障害のない方が使っている事例があった。県が管理している施設については、障害者用スペースであることをアピール、広報をしてほしい。

（委員）

地域包括支援体制の構築に向けて進める記述が薄いので、高齢者福祉の分野等との連携について記載してほしい。

（委員）

読書バリアフリー法の関係で、視覚障害のある人以外の方も録音図書等のサービスを利用できることをPRすべきだ。他県では、読書バリアフリー推進会議などを立ち上げているところもあると聞けるかどうか。

（事務局）

読書バリアフリー法については、法に基づき、県計画を策定する準備を進めており、ご意見はその際の参考とする。

（委員）

視覚障害のある人のための点訳や朗読は、ボランティアに頼っている状況であり、今後、その養成が大変になるのではないかと懸念している。

（事務局）

代読代筆を含めた意思疎通支援については、市町村が事業主体であるが、県としても市町村と連携して、しっかり取り組んでいきたい。

(委員)

コロナに関連した差別が問題にもなっている今、差別解消条例を制定してほしい。

(委員)

強度行動障害について、支援の体制整備を行うという項目を入れて頂いたことを感謝する。強度行動障害は、発達障害、知的障害が併存する状態で、且つ、生活への支障が非常に大きく、自傷や他害やそういう緊迫した状態が持続する状態で、特に在宅の保護者の方は、我慢の生活を強いられて、ご両親が高齢化しているという状況なので、今後調査をして、どうすればいいのか考えてほしい。

発達障害に関して増加している軽症の方への支援は、環境の整備が重要だ。高等教育における実技系教育など、トータルライフ支援と同時に、様々な環境的な整備を入れてほしい。

(事務局)

発達障害についての支援は、別の協議会などを設けて検討している。その中で、学齢期、学校を卒業してから社会に出た人をどうフォローしていくかも考えていきたい。

(委員)

審議会の意見、それからパブリックコメントの意見がかなり取り入れられたが、計画に書いたことを、実際の現場、生活に反映していくことが重要だ。

発達障害の人たちの現状把握が必要だ。

(事務局)

計画の進捗状況については、この会議でご報告させていただく。

発達障害については、国の全体的な総括的な調査がなく、全体の把握は課題であり、今後研究していきたい。

(委員)

数値目標のアンバサダーの人数は、5年先の令和7年度の目標が30人というのは少ないのではないかな。

(事務局)

まずは、30人を目指すこととし、30人を達成すれば、またさらに上を目指して取り組みたい。

(委員)

ピアサポート関係は、就労支援の側面からも促進してくべきだ。

(委員)

福祉障害サービスの質の向上について、福祉サービス第三者評価が有意義だとあるが、どこまで実践できるのか。

(事務局)

福祉サービス第三者評価は、事業所が、県が認証した第三者評価機関に自らのサービスを評価してもらい、評価結果を独立行政法人福祉医療機構のホームページ上で公表することで、利用者がサービス提供事業者を選択する際の参考としてもらうもの。まだ評価を受けている事業所が少ないため、評価の取組を推進していきたい。

(委員)

権利擁護の推進について、DVに合わせて、性犯罪や性暴力被害に関することについても、計画に加えてほしい。

(委員)

障害者計画は広く県民の皆さんに理解していただくため、説明する際には、体系図を分かりやすいものにしてほしい。

(事務局)

いただいたご意見は、計画にどう反映させていくか検討する。

## (2) 第6期岡山県障害福祉計画・第2期岡山県障害児福祉計画案について

(委員)

精神病床退院患者の退院後の行先について、現状値と目標値が同じであるのは違和感があり、検討してほしい。

(委員)

ピアサポートの質が低下しないように対応してほしい。

(事務局)

地域移行に関してピアサポーターの活動は非常に大事であり、引き続き、研修などにより、ピアサポーターの質の維持に取り組みたい。

(委員)

強度行動障害への支援について、盛り込んでいただき感謝する。強度行動障害の支援者養成研修については、知識の勉強だけでなく、実地研修が重要だ。実際の強度行動障害のある人の反応などを踏まえ、アプローチの仕方を身につける必要がある。

(委員)

発達障害は、早期に治療的介入をすることによって、慢性化・複雑化を防ぎ、強度行動障害もいくらか防げるかもしれない。子どものメンタルヘルス支援が重要であり、そのためのメンタル問題のアセスメントや治療をしていく人材確保が必要だ。

大人に関しては、引きこもり支援が重要で、より積極的に、専門的な相談や治療的介入ができる機能を強化していく必要があるのではないか。

また、不登校の問題について、不登校から引きこもりにつながることもあるが、不登校の中に発達障害の人がどのくらいの割合いるかなど分かるような努力をしてほしい。

(事務局)

発達障害の関係では、トータルライフ支援として、医療、保健、福祉、教育、労働等と関係分野が相互に連携して行うとしている。従来から、発達障害者支援地域協議会を設け、関係者で具体的な議論をしており、引き続き、関係機関と連携を取りながら進めたい。

(事務局)

不登校と発達障害の関係では、不登校の子どもに発達障害が絡んでいる場合が多いと考えているが、国の発達障害の調査自体が数年に一回という状況である。県独自の調査も行っているが、完全に把握できるものではない。今後も工夫しながら実態の把握に努めたい。

(委員)

難病患者等の特性に応じた支援、人材育成について、岡山県難病団体連絡協議会では、難病患者の特性に応じた就労支援をしている。県の方でも可能な協力をお願いしたい。

(委員)

障害のある人の就労促進について、雇う側が、障害のある人の個人情報を得て特性を知らなければ、その人の良いところを引き出して就労してもらうのは困難だ。人権や個人情報のことなので課題もあるだろうが、雇う側として情報がほしい。

4 ページの身体障害者区分の中で聴覚・平衡機能障害がまとめて把握されているが、支援の仕方が違うので、分けて書くべきではないか。

専門用語を使用する必要もあるかもしれないが、分かりやすい形で表示することも理解を広めていく点で重要だ。

(事務局)

就労の関係では、発達障害のある人を雇用している企業の方を招いたセミナーなど開催しているが、ご意見はこうした取組の参考にしたい。

4 ページの表は、障害者手帳の等級表の区分で整理したため、聴覚・平衡機能障害をまとめたものとしているが、障害にも色々な種別があり、それぞれの支援の在り方が異なるということを意識して様々な取組を進めていきたい。

(委員)

一般就労への移行支援で、人数の目標はあるが、移行後の状況も知りたい。

(事務局)

現在、把握できるものはないが、今後どういう形で把握できるのか検討する。

(委員)

ギャンブル依存症やゲーム依存症の把握を検討してほしい。

(事務局)

アルコール依存症については、計画がある。ギャンブル依存症については、計画を作る必要があると考えている。ゲーム依存についても、依存症と認識しているので、今後考えていく。

(事務局)

いただいたご意見は、計画に、どう反映させていくか検討する。